

4年産作付意向、主食用米は減少22県・前年並み25県(1月末)

農林水産省は3月2日、「令和4年産米等の作付意向(第1回中間的取組状況)」を公表した。都道府県農業再生協議会と地域農業再生協議会からの聞き取りに基づき、1月末現在の主食用米や備蓄米、戦略作物の作付意向を、前年実績と比較して増減を矢印で表したものの。

主食用米は増加傾向0県/前年並み傾向25県/減少傾向22県。5%以上の減少傾向は北海道、宮城、秋田、栃木の4道県。3~5%減少見込みは岩手、山形、千葉の3県。15県が1~3%の減少傾向となっている。備蓄米については、増加7県/前年並み18県/減少7県…の見込み。

その他、戦略作物等については下表のとおりで、麦・大豆を増やす意向の県が大きく増えるとともに、飼料用米を増やす意向の県が3年産と同様に多いことから、農水省では「引き続き、麦・大豆や野菜、子実用とうもろこし等の定着性の高い作物への転換を促していく」としている。

令和4年産米等の作付意向(3年産実績との比較、令和4年4月末時点)

	主食用米			戦略作物					備蓄米		
				加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)		麦	大豆
前年より増加傾向	0県			16県	20県	22県	32県	17県	24県	24県	7県
前年並み傾向	25県			21県	11県	18県	13県	26県	12県	13県	18県
前年より減少傾向	22県	1~3%	15県	7県	7県	5県	0県	2県	2県	8県	7県
		3~5%	3県								
		5%超	4県								

[注1]令和4年産の意向(増加傾向、前年並み、減少傾向)は3年産実績との比較。

[注2]比較している主食用米の3年産実績は令和3年12月統計部公表の主食用作付面積。

[注3]加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の3年産実績は取組計画認定面積。

[注4]麦・大豆の3年産実績は地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

[注5]備蓄米の3年産実績は地域農業再生協議会が把握した面積。

全農の4年産播種・複数年契約、値幅条件±20%に拡大

全農は令和4年産事前契約(播種前、複数年)の交渉をスタートさせた。聞き取りの範囲では、宮城・福島県本部から3年産相対基準価格±20%で提示を受けた事例が確認された。銘柄は▽宮城=ひとめぼれ、つや姫、ササニシキ▽福島=会津・中通り・浜通りコシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶ等—と伝わり、値幅条件は±20%を基本にしているもよう。提示数量は前年並み~やや少ない事例が聞かれる。

令和3年産の同契約では2年産相対基準比±10%を基本に設定しており、値幅を拡大する格好。前年産で契約積み上げが困難だったことや、現状の需給・市況環境などを踏まえた対応とみられる。過剰環境はまだ解消されていないが、4年産の生産抑制はさらに進む見通し。平年作なら新米供給は前年実績比20万トン程度の減少(基本指針通りなら26万トン減)が想定され、一定量の新米確保は必要不可欠。

東北あきたこまち・ひとめぼれ、関東コシヒカリなどは下限の▲20%なら1万トビ台と試算できる。実際にそこまで下がる可能性は低いとみるが、契約のハードルは下がりそう。古米在庫、引取残のほか、麦価上昇、新型コロナなどの変動要素も含めた判断になりそう。2月提示は少なく、大半の産地は3月提示となるものとみられる。

様子見で当用買いが続き、上げ下げまちまち(2月の市中取引)

2月における主食うるち米の市中取引は、全般的に様子見の展開が続いた。ジヤブ付くほどではないが、調整売りがぼつぼつ増えるなかで、手当ては「当用買い」の域を出なかった。持ち越した古米を同時に消化しなければならないことに加えて、オミクロン株の感染拡大に伴い、まん延防止等重点措置の適用が延長され、業務用米の需要見通しが不透明なことも材料になった。4年産転作の見通しも弱材料に。

市中相場は、上げ下げまちまち。北海道ゆめぴりか・ななつぼし、東北ひとめぼれ、福島コシヒカリなどが100~500円上伸。スタートから居所が安かった商人集荷玉の売り物が細くなり、下値切り上げの格好。集荷量が少なく、消化も早まった。ただ、上値を追隨するところは限定的で、出来高は減少傾向。

一方、年末に上げ修正した新潟一般コシヒカリや、競合銘柄に比べて居所が高かった秋田あきたこまちは、荷動きが鈍く100円下押ししたが、買いに勢いはない。売れ筋は、1万円以下の関東コシヒカリ。

令和3年産米の市中取引(令和4年2月末)

関東着値、包装込み、消費税抜き

産地	銘柄	等級	10/29 現在	12/28 現在	1/31 現在	2/28 現在	前月差	令和2年産	
								同期差	同期比
北海道	ゆめぴりか	1等	12,700	13,000	13,400	13,600	200	▲ 2,600	84%
北海道	ななつぼし	1等	11,400	11,400	11,900	12,000	100	▲ 1,000	92%
青森	つがるロマン	1等	9,500	9,600	9,600	9,700	100	▲ 2,100	82%
青森	まっしぐら	1等	9,300	9,500	9,700	9,700	0	▲ 2,200	82%
岩手	ひとめぼれ	1等	9,900	10,000	10,100	10,300	200	▲ 2,000	84%
宮城	ひとめぼれ	1等	9,800	10,000	10,200	10,500	300	▲ 2,100	83%
秋田	あきたこまち	1等	11,400	11,400	11,400	11,300	▲ 100	▲ 1,700	87%
山形	つや姫	1等	17,500	17,800	17,800	17,800	0	500	103%
山形	はえぬき	1等	10,000	10,600	10,800	10,500	▲ 300	▲ 1,900	85%
福島	会津コシヒカリ	1等	10,800	11,500	12,000	12,500	500	100	101%
福島	中通りコシヒカリ	1等	9,800	10,000	10,000	10,200	200	▲ 1,800	85%
福島	会津ひとめぼれ	1等	9,500	9,600	9,600	9,700	100	▲ 2,200	82%
茨城	コシヒカリ	1等	9,800	9,800	9,800	9,900	100	▲ 2,000	83%
茨城	あきたこまち	1等	9,800	9,900	10,000	10,000	0	▲ 2,200	82%
栃木	コシヒカリ	1等	9,900	10,100	10,100	10,000	▲ 100	▲ 2,000	83%
栃木	あさひの夢	1等	9,000	9,200	9,200	9,200	0	▲ 2,400	79%
千葉	コシヒカリ	1等	9,900	10,000	10,000	10,000	0	▲ 1,900	84%
千葉	ふさこがね	1等	9,000	9,300	9,400	9,500	100	▲ 2,000	83%
新潟	魚沼コシヒカリ	1等	19,700	22,800	25,300	25,300	0	7,600	143%
新潟	一般コシヒカリ	1等	14,300	14,500	14,200	14,100	▲ 100	0	100%
新潟	こしいぶき	1等	11,000	11,000	11,000	11,000	0	▲ 1,900	85%
富山	コシヒカリ	1等	12,500	12,500	12,500	12,500	0	▲ 1,300	91%
千葉	ヒメモチ	1等	12,100	12,200	12,200	12,200	0	▲ 1,500	89%
埼玉	雑品種	未検	8,500	8,700	8,700	8,700	0	▲ 1,800	83%

【市中取引】特定の場所・期間・市場(いちば)を指さず、日本で流通しているあらゆるコメが取引対象。

【市中相場】200俵前後の取引単位での玄米60kg当たり価格(消費税抜き)。包装容器(紙・フレコン)によって差が生じる場合がある。特定の場所の出来値を指すわけではなく、本紙が取材によって調べ、判断している。